様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２００１

研究課題名（和文）先住民の自由と開発：現代メキシコの事例

研究課題名（英文）Freedom, Development and Indigenous People: Case of Mexico

研究代表者
受田　宏之（Ukeda, Hiroyuki）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：２０４６６８１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：主な課題であった二言語教育に関する研究は、編著の出版には至らなかったものの、現地の研究者と連携しつつ、質的なデータを入手し、先住民移住者自身によるビデオとHPの制作に取り組み、成果物を公開した。当初考えていなかった研究上の展開として、EZLN（サパティスタ民族解放軍）と日本のヤマギシ会の比較研究に着手したことがあり、チアパス州とヤマギシ会の実顕地の訪問調査等に基づき、二度国際学会で成果を報告している。「先住民の自由」の理論化については、『東洋文化』に掲載された論文の中で枠組を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
特定のコミュニティへの長期に及ぶ実態調査に基づき、学際的な観点から先住民の自由に貢献する諸条件を探る本研究は、ディシプリンにより分断されがちであったり、「経済発展も独自の文化の保持も必要だ」といった建前論で終わりがちな先住民をめぐる研究にはない学術的、社会的意義を有する。コロナ禍への対策を先住民、現地研究者と一緒に考えたように、本研究は客観性を重んじるアプローチとアクション・リサーチを融合する意義も持つ。

研究成果の概要（英文）：The research on bilingual education, which constitutes the main topic of our study, did not lead to the publication of an editorial book, but we obtained qualitative data in collaboration with local researchers, and produced and published videos and websites of the indigenous migrants. And as a research development that we had not initially considered, we started a comparative study of EZLN (Zapatista Army of National Liberation) and Yamagishi-kai of Japan reporting its results at two international conferences. Concerning the theorization of “indigenous peoples and freedom”, our framework was presented in an article published in the Journal Toyo-Bunka (Oriental Culture).

研究分野：地域研究

キーワード：先住民　自由　多文化主義　メキシコ　インフォーマリティ　貧困　オトミー　EZLN

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

「様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通)」

受田宏之

１．研究開始当初の背景

申請者は 1998 年より、メキシコシティに住むサンティアゴ・メスキティトラン出身のオトミー（語族）移住者の研究を続けてきた。その間、政府による貧困対策の強化、（公定）多文化主義的な政策の拡充、IT の社会への浸透など、様々な変化がみられた。これらの変化を考慮しつつ、経済学的なアプローチと人類学的なアプローチを総合した観点からこれまでの先住民研究をまとめ直したいというのが研究の背景をなした。

２．研究の目的

研究の目的は、A・センと UNDP が説く文化的自由論が規範的なレベルにとどまりがちである現状を受けて、先住民の自由が拡がる条件を探ることにある。とくに焦点を当てたのは、申請者のメキシコでの恩師であり、オトミー語の優れた言語学者であると同時に、メキシコでの二言語教育の実現に生涯を捧げてきた言語学者 E・ヘッキング氏の功績を補う研究を行うことであった。両言語の構造の違いの把握、カリキュラムの策定や評価への先住民自身の参加などを通じて、優勢言語であるスペイン語と衰退している先住民言語（オトミー語）の双方を子どもたちが学習することを目指す維持型二言語教育の理念は、文化的自由論に合致する。

しかし、ヘッキング氏が申請者に漏らしてきたように、二言語教育の実際は内実を伴っておらず、言語学者の知識も活用されていない。どうすれば二言語教育をめぐるギャップを縮めることができるのかをオトミー移住者の事例を通じて考えてみることが、本調査研究の最大の課題となった。メキシコシティに住む先住民移住者に対しても、とある小学校での「二言語教育」の導入とその挫折、NGO による教育支援、先住民リーダー層の EZLN や他の社会運動組織への関与など、興味深い動向があり、それらを申請者は断片としてではなく、先住民をとりまく全体の文脈に位置づけることができる。

３．研究の方法

申請者は、先住民移住者と彼らの支援者から得た信頼を生かし、質的、量的なデータを入手することを目指した。主な調査対象となる先住民移住者コミュニティ（不法占拠地）における複数のインフォーマントからのライフヒストリーと言語使用の聞き取り、民芸品販売促進のためのビデオ制作と HP の制作、小学校を含む政府機関や NGO の訪問と参与観察、社会経済状況や社会ネットワークを知るための移住者世帯の悉皆調査などにより得た情報を、これまで集めたデータと突き合わせる。院生時のように長期間現地に滞在することはできないので、データ収集にはメキシコ人の人類学者 A・ゲレーロ氏（INAH（国立人類学歴史研究所）所属）および大学生とな

ったオトミー・インフォーマントの協力を仰ぐことにした。なお、量的なデータの収集はコロナ禍のため中断している。

４．研究成果

二言語教育に関する研究は、ヘッキング氏の功績を称えた編著の出版には至らなかったものの、ゲレーロ氏と連携しつつ、質的なデータを入手しつつ、オトミー移住者自身によるビデオの制作に取り組んだ。民芸品製作や移住史など複数のビデオの制作と公開を実現したほか、コロナ禍で民芸品販売の激減した移住者家族のため、申請者の提案により、HP 上に販売促進のための紹介コーナーを設けた（https://orgullootomi.com.mx/）。インフォーマルで不安定な生業に従事する先住民が、IT 技術を用いながら先住民性を戦略的に活用しつつ自らの自由のスペースを拡げていくことは重要であり、そうした試みに研究者が貢献することの意義は大きい。

当初考えていなかった研究上の展開として、EZLN（サパティスタ民族解放軍）と日本のヤマギシ会の比較研究に着手したことがある。1994 年にチアパス州で武装蜂起した前者はそれ以降、国内外の先住民自治運動を牽引する存在となった。オトミー移住者も、EZLN とその支持者のネットワークの中に組み込まれている。だが、他の多くの先住民の場合にも当てはまることだが、オトミー移住者と EZLN の関係は特定の出来事（EZLN のメキシコシティ訪問など）やテーマ（不法占拠地の正規化への支援要請など）に応じて断続的につながるというものであり、自らの議論の枠組に EZLN をどう位置付けるかは長年の課題だった。包括的なコミットメントを要請する経済志向のユートピア運動であるヤマギシ会に対し、より弾力的で政治志向のユートピア運動として EZLN を捉えることにより、近年停滞気味の先住民運動論に新たな光を当てることができる。チアパス州とヤマギシ会実顕地の訪問調査等に基づき、二度国際学会で成果を報告している。

最後に、「先住民の自由」の理論化については、『東洋文化』に掲載された論文の中で枠組を提示した。それを EZLN を含む書籍として出版する作業は、今年度以降に持ち越すこととなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 受田宏之	４．巻 100
２．論文標題 測り過ぎ，闘い過ぎ ： メインストリームとラディカリズムの狭間でみたメキシコ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東洋文化	６．最初と最後の頁 79-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 受田宏之	４．巻 1428
２．論文標題 希望は残っているのか―メキシコ、オブラドールの大勝から1年を経て	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ラテンアメリカ時報	６．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 受田宏之	４．巻 27-2
２．論文標題 新刊紹介 太田和宏『貧困の社会構造分析―なぜフィリピンは貧困を克服できないのか（法律文化社、2018年）』」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『国際開発研究』	６．最初と最後の頁 163-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 受田宏之	４．巻 38
２．論文標題 AJELの歩みを振り返る 巻頭言	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ラテンアメリカ研究年報	６．最初と最後の頁 97-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 受田宏之	4．巻 1420号
2．論文標題 ロペス＝オブラドールとは何者なのか―メキシコ2018年総選挙の展望	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ラテンアメリカ時報	6．最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 受田宏之・宮地隆廣	4．巻 No. 261
2．論文標題 メキシコの麻薬戦争と民衆歌謡―ナルココリードから社会規範を読み解く	5．発行年 2017年
3．雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6．最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 Hiroyuki Ukeda
2．発表標題 Weak, Tolerant or Strong, Unforbearing? Informality and the State in Latin America and East Asia
3．学会等名 the Second International Colloquium of Mexican and Japanese Studies
4．発表年 2021年

1．発表者名 受田宏之
2．発表標題 異なるものをつなぐ、比べる：地域研究と開発研究の狭間で考える
3．学会等名 グローバルスタディーズイニシアティブセミナー
4．発表年 2021年

１．発表者名 Hiroyuki Ukeda
２．発表標題 Egalitarian Ideals, Internal Commitments and External Supports: A Comparative Study of Two Different Utopian Movements
３．学会等名 UTokyo LAINAC International Workshops on “Rethinking Inequality: Its Causes, Perceptions and Politics（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 受田宏之
２．発表標題 先住民移住者と教育
３．学会等名 国際開発学会第30回記念全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hiroyuki Ukeda
２．発表標題 “Mas alla de Santiago Levy: La economia politica de la informalidad en Mexico,”
３．学会等名 LASA (Latin American Studies Association) 2018 Congress, Barcelona, Spain, May 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 受田宏之
２．発表標題 「テクノクラートのメキシコと多文化主義のメキシコ：21 世紀のメキシコにおける先住民問題」
３．学会等名 第 55 回ラテン・アメリカ政経学会全国大会 メキシコ・パネル報告、神田外語大学
４．発表年 2018年

１．発表者名 受田宏之
２．発表標題 先住民とインフォーマリティ―主流から外れたものからみるメキシコ経済の変容
３．学会等名 第54回ラテン・アメリカ政経学会全国大会パネル報告、京都大学
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ukeda, Hiroyuki
２．発表標題 “Peasants and Networks for Organic Agriculture Promotion: Participatory Guarantee System in Mexico,”
３．学会等名 Panel Session “Pequenos productores y comerciantes locales de la globalizacion desde abajo”, LASA (Latin American Studies Association) 2017 Congress, Lima, Peru, May 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計8件

１．著者名 受田宏之	４．発行年 2021年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 2
３．書名 先住民と貧困（ラテンアメリカ文化辞典）	

１．著者名 受田宏之	４．発行年 2021年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 2
３．書名 インフォーマリティ（ラテンアメリカ文化辞典）	

1．著者名 東京大学教養学部編	4．発行年 2020年
2．出版社 白水社	5．総ページ数 201（所収論文は12）
3．書名 異なる声に耳を澄ませる（初修論文は「先住民研究の難しさと喜び」）	

1．著者名 ロゼット、ピーター／ミゲル・アルティエリ（受田千穂／受田宏之訳）	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 160
3．書名 『アグロエコロジー入門―その理論、実践と政治』（原著はRosset, Peter and Miguel Altieri, Agroecology: Science and Politics, Warwickshire: Practical Action Publishing, 2017）	

1．著者名 星野妙子編	4．発行年 2019年
2．出版社 アジア経済研究所	5．総ページ数 254
3．書名 星野妙子編『メキシコの21世紀』（所収論文は「不法占拠と露天商の生命力：インフォーマリティの政治経済学」、pp.133-165）	

1．著者名 ロゼット、ピーター／ミゲル・アルティエリ（受田千穂／受田宏之訳）	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 印刷中
3．書名 『アグロエコロジー入門―その理論、実践と政治』（原著はRosset, Peter and Miguel Altieri, Agroecology: Science and Politics, Warwickshire: Practical Action Publishing, 2017）	

１．著者名 青山和佳・受田宏之・小林誉明編	４．発行年 2017年
２．出版社 大学教育出版	５．総ページ数 243
３．書名 開発援助がつくる社会生活―現場からのプロジェクト診断（第二版）	

１．著者名 星野妙子編	４．発行年 2018年
２．出版社 アジア経済研究所	５．総ページ数 印刷中
３．書名 21世紀のメキシコ―近代化する経済、分極化する政治と社会（所収論文は「不法占拠と露天商の生命力：インフォーマリティの政治経済学」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関